

# 平成31年度 学校教育の努力点計画

平成31年4月1日

## 1 研究主題

豊かな関わり合いの中で思いやりの心を育む道德教育の推進  
～発問構成の工夫を通して～

## 2 研究のねらい

本校では昨年度から、道德の時間を中心にした学校教育の努力点推進に取り組んできた。昨年度は、思いやりの心をもった子どもを育てていくために、相手の立場や気持ちを考えることができるような学習過程を工夫し、実践を重ねた。その結果、他者の立場や思いを推し量りながら、自分の思いと比べ、豊かな関わり方を考える姿が見られ、一定の成果を得られることができた。また、日常実践として思いやりの基本とも言える挨拶を取り上げ、低中高学年それぞれの行動目標を設定して、日常生活の中で心の成長を実感できるような指導を進めることができた。

しかし、授業で考えたことを自分の生活に振り返ってみたり、学級に置き換えて考えてみたりするまでには至らなかった。それは、本時のねらいに迫るような「中心発問」で、児童から多様な考えを引き出すことができていないからではないかと考える。そのため、児童が、自分だけでなく友達が多様な考えに接することがないまま授業の終末を迎え、ねらいとする道德的価値を自分のこととして考えたり、感じたりすることが不足していたのではないかと考える。また、授業で深く考えたことを、日常生活で振り返らせるような取り組みが不足していたことも課題として残った。

そこで今年度は、この課題を解決するために、発問の構成に重点を置き、道德の時間で考えることを「自分ごと」として捉えさせ、学級内で意見交換を活発にしていきたい。そして、昨年度から継続して取り組んでいる、自分の思いと他者の思いとを比べたり考えたりさせることで、思いやりの心を育てていきたいと考える。さらに、日常生活の中でも目標とする姿を設定し、心の成長を視覚的にも捉えることができるような取り組みも行っていきたい。

## 3 研究のねらいに迫るための手だて

- |                              |
|------------------------------|
| ① 自分ごととして捉えさせることができるような発問の工夫 |
| ② 目指す姿の設定                    |

### ① 自分ごととして捉えさせることができるような発問の工夫

授業で考えることを自分ごととして捉えさせるには、発問の構成が重要である。まず、導入で問題提起を工夫して、児童から出た問いを生かして本時の学習のテーマに迫りたい。また、中心発問を吟味し、その後の子どもの反応を予想し、問い返しやゆさぶりの発問を用いて授業を展開する。そうすることで、子どもたち一人一人が自分を振り返り、主体的に本時の学習の内容を捉えることができると考える。

また、昨年度から継続して取り組んでいる、ペアやグループでの話し合いを充実させ、物事を多面的・多角的に考えることができるような指導を進めていく。

### ② 目指す姿の設定

思いやりの心を行動としても表すことができるように、挨拶を例に挙げ、目指す姿を設定する。今年度は、学年ごとの目標ではなく、思いやりの心を表すための、目指す姿を設定する。全校が同じ目標に向かって取り組むが、学年ごとに四つの姿の中から重点を設定し、年間を通して定期的に自己評価を行いながら実践を進めていく。

に	にっこり笑顔	笑顔で、目と目を合わせて挨拶をする
じ	自分から進んで	自分から先に挨拶をする
っ	続けて返す	(もし相手が先にしてくれたら) 続けて挨拶を返す
こ	心を込める	だれに対しても心を込めて挨拶をする

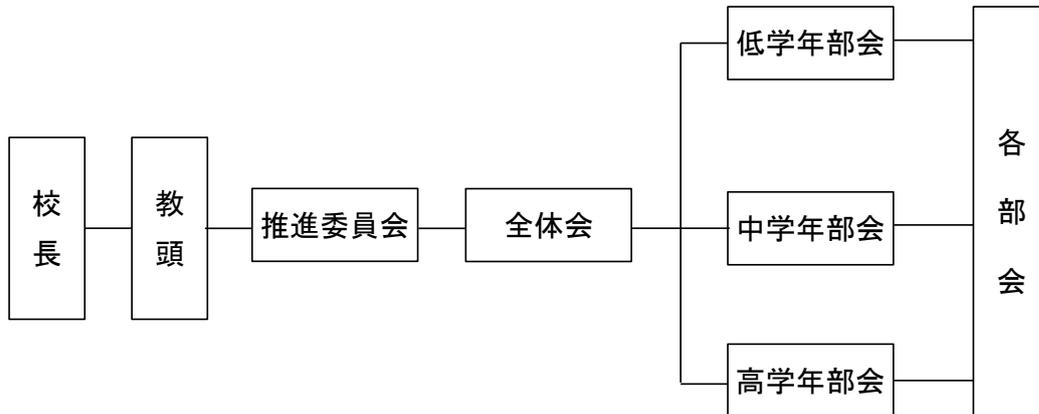
【思いやりの心が表れる挨拶の行動目標】

#### 4 実践の方法と評価

- 各学年の代表者が、代表授業を行う。代表授業については、低・中・高学年部会で事前・事後検討会を行い、指導案を作成する。部会の先生は参加する。代表授業の授業日は原則として、低学年は木曜3限、中学年は火曜6限、高学年は金曜6限に設定する。
- 各担任で一回の公開授業を行う。公開授業日はできるだけ多くの先生に公開できるように日程を調整する。授業への参加は自由とする。また、曜日や時間も自由とするが、できるだけ多くの先生に公開できるように設定するのが望ましい。
  - ・ 学年内で、違う教材を使用する。
  - ・ 公開授業は二学期までに行い、学年内で同じ学期に偏らないように調整する。
  - ・ 公開授業を行う5日前までに全職員に周知をし、その後、略案形式の指導案を配布する。
- 授業参観で、保護者や地域に公開する。(6月)
- 保護者アンケート・児童アンケート(各2回)、教職員アンケート(1回)を行い、実践方法や手だてが有効であったかを評価する。

#### 5 研究の組織

研究を推進するために、以下のような研究組織を構成する。具体的な研究推進にあたって、教務主任と努力点推進委員で推進委員会を組織し、実践を進めていく。



#### 6 年間計画

学期	月	日	曜日	会名	内容
1	4	11	木	全体会	研究計画の検討
	5	20	月	推進委員会	授業実践について
	6	13	木	推進委員会	「中間まとめ」について検討
2	8				研究推進校への視察、文献研究、資料の収集
	9	2	月	推進委員会	中間報告会に向けて
	10	7	月	全体会	中間報告会
	11	28	木	推進委員会	2学期の反省と3学期実践について検討
3	1	7	火	推進委員会	「年間のまとめ」について検討
	2	6	木	全体会	最終報告会
		27	月	推進委員会	次年度の研究計画の検討

※ 学年会は、学年でその都度実施する。

※ 必要に応じて、低中高学年部会、臨時の推進委員会、臨時の全体会を開く。